

町会報

えひめ

2017
12
Vol.105

発行所／愛媛県町村会・愛媛県町村議会議長会
〒790-0001 松山市一番町4丁目1番地2
TEL089-941-7598(代表)
FAX089-945-1318



愛南町「愛南かき」

ぷりっとした食感、海のミルクと呼ばれる高い栄養価と濃厚な味が特徴の愛南町の牡蠣。養殖が行われている御荘湾には、5つの川から（菊川・神田川・長洲川・蓮乗寺川・僧都川）栄養塩が流れ込むため、牡蠣のエサとなるプランクトンが豊富にあり、牡蠣はそのエサをたっぷり食べて育ちます。今年度から地域統一ブランド「愛南かき」として愛南漁業協同組合で販売しています。ぜひご賞味ください。

Contents

全国町村長大会	2	市町職員研修会	6
東日本大震災被災地視察	3	固定資産税家屋評価実務研修会	7
四国四県町村会事務連絡会議	3	一筆	8
町イチ・村イチ2017	4~5	12月の行事／編集後記	8

全国町村長大会を開催

11月29日 NHKホールで



全国町村長大会は、11月29日東京・渋谷のNHKホールで全国927の町村長、都道府県町村会関係者約1,300人が出席。来賓に西村内閣官房副長官、大島衆議院議長、伊達参議院議長、小倉総務大臣政務官、松本内閣府副大臣、竹下自由民主党総務会長、櫻井全国町村議会議長会会長らを迎え、盛大に開催された。

大会は岩田副会長(千葉県東庄町会長)の司会で進められ、はじめに荒木会長(熊本県嘉島町長)が挨拶に立ち、「町村を取り巻く環境は極めて厳しいものがある。町村長相互の連携を一層強固なものとし、直面する課

題、将来にわたる課題に一致結束して積極果敢に取り組んでいこう」と参加者に訴えた。

この後来賓挨拶に移り、内閣総理大臣代理の西村内閣官房副長官が「安倍内閣は、「地方の活力なくして日本の活力なし」という基本姿勢で臨んでいく。町村長の皆様には、今後とも地域のリーダーとして先頭に立ち、町村の発展に遺憾なく力を発揮されることを期待する」と挨拶を述べた後、前記の来賓各位からそれぞれ挨拶があった。

ついで、町村へのメッセージをいただくため、東京大学名誉教授・福島大学教授 生源寺真一氏が登壇、「時代の新たな流れを受けて、新たな決まりごとを地域社会みずから創出していくという、現場の取組を高く評価したい」と参集した町村長を激励した。

この後、大会議長に金森副会長(富山県舟橋村長)を選出し、議事に入り、別掲の決議案や全国森林環境税の実現に関する特別決議案が上程され、満場一致で決議。さらに34項目の大会要望も一括採択された。

これらの決議、特別決議及び要望事項を実現するための実行運動方法については、地元選出国會議員、政府要路に対して、適宜有効な方法で行うことを決定し、13時30分に大会を閉会した。

なお、本県からは各町長と事務局職員が出席した。

決議

町村の多くは農山漁村地域にあり、文化・伝統の継承はもとより、食料の供給、水源かん養、自然環境の保全等、国民生活にとって極めて大きな役割を果たしてきた。このように国民共有のかけがえのない財産であり、日本人の「心のふるさと」である農山漁村を次世代に引き継いでいくことが我々の責務である。

しかしながら、町村は、急速な少子高齢化や人口減少、基幹産業である農林水産業の衰退など多くの課題を抱えており、また、総じて税源に乏しく厳しい財政運営を余儀なくされている。

加えて、東日本大震災、熊本地震及び集中豪雨等による大規模災害の被災地における復旧・復興をはじめ、一億総活躍の実現に向けた更なる地方創生の推進のためには、国と地方が総力を上げて取り組んでいかなくてはならない。

我々町村長は、相互の連携を一層強固なものにしながら、直面する課題に積極果敢に取り組む、地域特性や資源を活かした施策を展開し、豊かな住民生活と個性溢れる多様な地域づくりに邁進する決意である。

よって、町村が自主的・自立的に様々な施策を展開しよう、特に下記事項の実現を強く求めるものである。

記

- 一、東日本大震災、熊本地震及び豪雨災害等からの復興の加速化を図るとともに、全国的な防災・減災対策を強力に推進すること。
- 一、一億総活躍社会の実現に向け、地方創生の更なる推進を図ること。
- 一、地方分権改革を推進すること。
- 一、道州制は導入しないこと。
- 一、参議院の合区を早急に解消すること。
- 一、「まち・ひと・しごと創生事業費」を拡充するとともに、地方交付税等の一般財源総額を確保すること。
- 一、ゴルフ場利用税及び償却資産に係る固定資産税を堅持すること。
- 一、農林漁業の振興による農山漁村の再生・活性化を図ること。
- 一、田園回帰の時代を拓き、都市と農山漁村の共生社会を実現すること。
- 一、農林漁業者が将来に希望をもてるよう、TTP・日欧EPA対策に万全を期すこと。
- 一、領土・外交問題・国民の安全保障に毅然とした姿勢で臨むこと。

以上決議する。
平成29年11月29日

全国町村長大会

全国森林環境税の実現に関する特別決議

森林は、国民共有のかけがえのない財産であり、将来にわたり森林を守り育てていくことは、地球温暖化の防止のみならず、災害に強い国土の保全、清らかな水資源のかん養など、安心して豊かな国民生活を維持していく上で極めて重要な役割を果たし、都市、地方を問わず広く国民の一人一人が多額の恩恵を受けるものである。そしてその重要な担い手がまさに山林を多く抱える町村である。

しかしながら、町村の森林の現場においては、森林所有者の特定の困難や境界の不明、担い手の不足といった、林業・山村の疲弊により長年にわたり積み重ねられてきた根本的な課題がある。森林の現場に近く、所有者に最も身近な存在である町村が、こうした課題に主体的かつ積極的に取り組み、森林・林業施策の推進を通して国民の生活を支える重要な役割を十分に果たしていくためには、何よりも、町村の森林整備等に必要の恒久的な安定的な財源の確保・充実が不可欠である。

この喫緊の課題に対処するため、政府・与党は個人住民税均等割の枠組みの活用を含め、都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税の創設に向け、平成30年度税制改正において結論を得ることとしている。

全国森林環境税の創設は、町村の長年の悲願であり、我々は、平成30年度税制改正において確実に全国森林環境税が実現されるよう強く求めるものである。

平成29年11月29日

全国町村長大会

福島県飯舘村視察研修を実施

愛媛県町村会

愛媛県町村会では、前掲の全国町村長大会の後、11月30日福島県へ移動。8町長参加の下、12月1日に福島県相馬郡飯舘村において、次のおり視察研修を行った。

さきの東日本大震災から6年余が経過。この間、福島第一原子力発電所の事故で計画的避難区域に指定され、全村避難・役場機能の移転を余儀なくされた飯舘村の震災からの復興状況および現状などを視察した。

四国地方は、東南海・南海地震の発生が懸念されており、とくに本県は飯舘村のように原子力発電所を抱え



ているほか、長い瀬戸内海やリアス式の宇和海沿岸があることから、事



態に直面した場合の震災対策を研修しようと計画したものの。

研修会では、はじめに飯舘村の菅野典雄村長から、東日本大震災からの復旧・復興状況や、原子力災害に伴う住民避難等の状況について説明を受けるとともに、飯舘村内を担当

職員の案内をいただきながら、来年度から再開する小中学校、除染土壌仮置場、仮設住宅、道の駅までい館、交流センターふれ愛館等を視察した。

今回の原発事故による飯舘村の事後対応を、今後の参考に資していきたい。

四国四県町村会事務連絡会議

12月21日 本県で開催

いて（愛媛県）

なお、今回は高知県で開催されることに決定した。

四国四県町村会事務連絡会議が、12月21日「愛媛県自治会館」で開催され、各県事務局長や担当者が出席。各県から提出された議題を中心に意見交換を行った。

〈各県提出議題〉

- 1 平成29年度四国四県町村長・議長大会の決算見込みについて（高知県）
 - 2 平成30年度四国四県町村長・議長大会について（徳島県）
 - 3 四国内旅費の計算方法について（徳島県）
 - 4 町村会が発行する会報等について（愛媛県）
 - 5 電報について（香川県）
 - 6 町村長OB・OG会の開催状況について（香川県）
 - 7 その他
- ・退職手当支給率の引き下げにつ



町イチ!村イチ!2017 開催される

全国から340町村が東京に集結!

～本県からは上島町・鬼北町が出店～

12/2・3 東京国際フォーラムで



愛媛県町村会では、前掲の福島県飯館村視察の後、12月2日東京都内へ移動し、東京国際フォーラムで開催された、町イチ!村イチ!2017の視察研修を行った。

町イチ!村イチ!2017は、全国町村会が、12月2日、3日の両日、東京国際フォーラム(千代田区)で「日本から日本を元気にする」をテーマに開催したもの。

このイベントは、全国の町村が一堂に会し、町村の魅力をアピールすることを目的として2011年に第1回を開催、今回で4回目となる。

メイン会場である東京国際フォーラムでは、特産品の展示・販売やご当地グルメの食堂コーナー、ステージ上では郷土芸能やパフォーマンズ、ロビーギャラリーでは伝統工芸の実演・体験等に加え、移住・定住に関心がある方々に町村の暮らしに密着した情報を紹介するコーナーも設置されていた。

今回は12月の開催ということもあり、メインオブジェとしてクリスマスツリーや大きなソリを飾るなど、イベント会場がクリスマスの雰囲気にも包まれるような演出が施されていた。

また、サテライト会場である有楽町駅前広場のステージ上では郷土芸能やご当地キャラによるパフォーマンスが演じられた。

全国から約340町村が参加したこのイベントには、2日間で約48,000人の来場者があり、終日賑わった。

展示・販売コーナー

ホールE(5,000㎡)では、北海道、東北、関東、北信越・東海、近畿、中国・四国、九州の七つのエリアに分かれ、約270の展示・販売ブースが並び、約2,200種類の特産品など、各町村の「イチ押し」の品が並べられ、試飲・試食や地元特産品を懐かしむ方など多くの来場者に楽しんでいただいた。

本県からは、上島町、鬼北町が出店した。

町イチ！村イチ！食堂

自慢のご当地グルメを楽しめる「町イチ！村イチ！食堂」には、50以上の町村が出展し、多くの来場者が普段東京では味わえないご当地グルメを堪能。完売も相次ぐほど盛況であった。

.....

今回で4回目の開催となった「町イチ！村イチ！2017」は、多くの来場者から「日本を元気にする」は、多くの方にご来場いただき、盛会のうちに閉



幕した。

町村には、まだまだ多くの「宝」が眠っていると思われる。町村にとって、ごく普通のものが、都会の人にはお宝だったと、町村のすばらしい魅力を都会の人々に訴える絶好のイベントであったと考える。



29年度市町職員研修会を開催

愛媛県人権協会主催による、「平成29年度市町職員研修会」が12月8日えひめ共済会館 4階 豊明で開催され、県内市町の管理職員ら40人が出席した。

講師は、パラリンピック日本代表（射撃・バリアフリー啓発講師・エッセイスト・モデル・ユニバーサルデザインの商品開発を行っている鈴木ひとみ氏。

講師は、1981年に、ミス・インターナショナル準日本代表に選ばれ、ファッションモデルとして活躍されていたが、1984年に交通事故で車椅子生活を余儀なくされること。



現在は執筆・講演活動のほか、洋服メーカーのモデル・アドバイザー、企業のバリアフリーコンサルタントなど幅広く活躍中。
一方、1985年に鳥取で行われた身障者の国体に出場するとともに、1987年にイギリスで開催された国際競技大会に、車椅子陸上で金メダルを獲得された。また、アテネで行われたパラリンピックでも射撃

の日本代表で出場されている。著書は、『一年遅れのウェディングベル』、『命をくれたキス』、『気分は愛のスピードランナー』など多数。今回は「みんな一人の価値ある人間です！生まれ・障害・性別で変わるものではないはず」と題するお話で、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、日常生活において障がい者ひとり一人の必要性を考へること、すなわち障がい者に対する合理的配慮とはなにかという点を中心に有益な講演をいただいた。

講師紹介

鈴木 ひとみ 氏

ミス・インターナショナル準日本代表。パラリンピック射撃日本代表。交通事故で車いす生活になる。障害を持つ以前よりもっと成長した生き方をしたい、を信念に聞いた人が元気になると評判の人気講師。著者『車椅子の花嫁』がドラマ化。現在は、UD商品の開発他、バリアフリーな社会を目指し活動中。



■経歴・職歴

- 1962年 大阪府生まれ。
 - 1981年 「ミス・インターナショナル日本大会」において、82年度ミス・インターナショナル準日本代表に選出され、同年モロッコで行われた「ミス・ネーション世界大会」に出場し、ミス・エレガントに選出される。
 - 1983年 上京後、ファッションモデルとして活躍。また、TBS「世界まるごとHOWマッチ」のアシスタントとしても活躍する。
 - 1984年 交通事故に遭い頸椎を骨折し、車イス生活を余儀なくされる。
 - 1985年 身障者の国体(鳥取)に出場し、2種目(スラローム・60m)に大会新記録で見事優勝する。
 - 1987年 「国際競技大会(車椅子競技の世界大会)」で金メダルを獲得する。
 - 2002年 世界射撃選手権にライフル競技で出場する。
 - 2004年 アテネパラリンピックに射撃の日本代表選手として出場。
 - 2011年より NHK障害福祉賞審査員
- 現在は、執筆・講演活動の他、洋服メーカーのモデルとアドバイザー、企業のバリアフリーコンサルタントとしてアドバイスなどを行っている。

■主なマスコミ活動

NTV「スーパーテレビ」で『車椅子の花嫁の15年』として放送される他、「徹子の部屋」「クイズ\$ミリオネア」「ザ・ベストハウス1・2・3」「アンビリバボー」等テレビ番組に多数出演。

■著書

- 『命をくれたキス』(小学館)日本の他、中国・韓国でも翻訳されている。
- 『一年遅れのウェディングベル』
- 『気分は愛のスピードランナー』

平成29年度市町職員研修会実施要領

- 1 研修目的 本年度事業計画に基づき、本県の同和対策の推進を図るため、会員市町の管理職員を対象に開催するものである。
- 2 主 催 愛媛県人権協会
- 3 日 時 平成29年12月8日(金) 開会 13時30分
閉会 15時00分
- 4 場 所 えひめ共済会館 4階 豊明
- 5 研修演題・講師、参加対象者
 - ・テーマ みんな一人の価値ある人間です
～生まれ・障害・性別で変わるものではないはず～
 - ・講 師 鈴木 ひとみ 氏
パラリンピック日本代表(射撃)
バリアフリー啓発講師・エッセイスト
ユニバーサルデザインの商品開発・モデル
 - ・参加対象 市町管理職員(各市町6名)





公益財団法人愛媛県市町振興協会（理事長・清水雅文愛南町長）は、12月14・15の両日、愛媛県農業共済組合で「平成29年度固定資産税家屋（非木造）評価実務研修会」を開催した。この研修会は、「固定資産税は住民税と並んで市町村財政を支える基幹税であり、適正な課税のために評価基準に基づいた評価を実施することが求められる。このため、特に仕組みが複雑な家屋評価について、その知識と技術を習得すること」を目的

固定資産税家屋（非木造） 評価実務研修会を開く （公財）愛媛県市町振興協会

として開催したもので、各市町から固定資産税家屋担当者ら42名が出席した。

研修テーマは、「家屋（軽量鉄骨造住宅）の不明確計算による評価演習」。

講師は一般財団法人資産評価システム研究センター主任研究員の高橋信明氏で、2日間にわたり講義や現地研修が行われた。

平成29年度「固定資産税家屋（非木造）評価実務研修会」開催要領

主催 公益財団法人愛媛県市町振興協会

1 目 的

固定資産税は住民税と並んで市町村財政を支える基幹税であり、適正な課税のために評価基準に基づいた評価を実施することが求められる。

このため、特に仕組みが複雑な家屋評価について、その知識と技術を習得することを目的として本研修会を開催する。

2 日 時

1日目 平成29年12月14日（木）10時00分～16時00分

2日目 平成29年12月15日（金）10時00分～16時00分

3 場 所

研修会場：愛媛県農業共済組合 5階 会議室
住 所：松山市二番町4丁目4番地2
【駐車場なし】

現地研修：積水ハウス松前展示場
（RNB 住宅展マサキデッキ内）
住 所：伊予郡松前町永田525

4 対 象 者

各市町固定資産税家屋担当者及び県不動産取得税事務担当者等

5 研修テーマ

家屋（軽量鉄骨造住宅）の不明確計算による評価演習

6 講 師

（一財）資産評価システム研究センター 高橋 信明 氏

7 日 程

【1日目】 9：30～ 受付
10：00～12：00 研 修
13：30～14：30 現地研修（1部）
15：00～16：00 現地研修（2部）
【2日目】 10：00～16：00 評価演習
※参加人数によっては1日目の日程変更あり

8 携 行 品

- ・固定資産評価基準（家屋）別表（平成30年度）
- ・単位当たり標準評点数の積算基礎（平成30年度）
- ・固定資産税木造家屋評価実務マニュアル（平成27年度）
- ・電 卓
- ・三角スケール
- ・コンバックス
- ・スリッパ
- ・家屋調査表（家屋評価の際に用いているもの）





来年は本腰を

師走となれば毎年、気忙しい中で何となくこの1年を振り返る。

今年の日本列島は、桁外れの集中豪雨をはじめ春夏秋冬を度外視した時季はずれの気象に、次々とみまわれた。地震は地震列島の名に恥じない？2千回を超す(震度1以上)多さであった。海外各地での自然災害も半端ではなかった。しかし、これら自然の暴挙に対しては、減災の道しか手立てがない。

一方、人為的に各地で依然として続く地域紛争の解決、テロ皆無への道筋などは見えず。進化の時代にも関わらず、「人は、解決の道を考えているのだろうか」の思いの一年でもあった。

来年こそ各国のリーダーは、主義主張・政治信条・思想など別次元とした意識で、皆が幸せを公平に享受できる社会実現へ舵取りを願いたい。

今や、自己保身・主張を捨てた互いの信頼しか、ノストラダムス的な予言に勝てる道はない。ただ傍目八目で見ると、諸外国の自己主義のコントロールを危惧するようなハドルの低い先達が気に掛かる。今年

は、自然大災害発生前に自滅しかねない雲行きでもあった。国家間の約束事さえも反故に私人のごとき主張では、東・西・南・北もない。どうか来年は「信頼ある人世界」を目指

してほしい。

さて、12月19日の地震調査委員会(政府)が、四国活断層長期評価を見直し、本県「石鎚山北縁西部区間(約41km)」をM7.5程度で、地震発生確率をSランク(発生の可能性3%以上(識者によると現実的な数字)、確率4段階の最高)に引き上げを公表した。また「中央構造線断層帯」も大分県由布院断層まで延長(約44km)。30年以内に四国のどこかで活断層M6.8以上の地震が起きる予測の高さに注視。南海トラフ巨大地震より先に伊予灘へ豊後水道での地震発生予測に合せ、列島の中でも地震の引き金になる「ひずみ」が特に溜まっているのは、四国西北部地域と既にGPS計測が示しており、完全予知が出ない以上、それなりの心構えが今こそ必要である。

一方、世間ではこの一年、常識で理解出来ない猟奇事件が目についた。世の中、未来に夢は無く、人の心もゆとりが無くなったのであろうか。

さらにこれから先、少子・超高齢化時代の裏面として、いろんな分野での格差と不公平感がますます出てくる恐れを危惧した一年でもあった。「格差なき、安定した社会」を創ることは、猛威の自然対策より容易なはず。今日の状況から来年は、その対応に本腰を入れるための大切な年にあたるのでは。

「世界に国家の複雑性が存在する限り、戦争は世界歴史の終わるまで継続する」

(ジョン・ドライデン)

英国の詩人)

12月の会と催し

- ▽2日 町イチ！村イチ！2017
- ▽3日 第72回国民体育大会入賞選手祝賀会・第17回全国障害者スポーツ大会入賞選手祝賀会
- ▽4日 愛媛県地域医療支援センター運営委員会第5回医師確保支援部会
- ▽5日 第37回障がい者福祉推進愛媛県大会、全国退職手当組合協議会幹事会、全国町村会政調幹事会、都道府県町村会事務局長会議、災害共済事務連絡会議
- ▽8日 愛媛県人権協会平成29年度市町職員研修会
- ▽12日 中国・四国各県町村会災害共済事務連絡会議
- ▽14日 固定資産税家屋(非木造)評価実務研修会(第1日目)
- ▽15日 固定資産税家屋(非木造)評価実務研修会(第2日目)
- ▽21日 四国四県町村会事務連絡会議
- ▽25日 山下前伊方町長・阪本前松野町長の旭日小綬賞受賞祝賀会

編集後記

東日本大震災からもうすぐ7年目を迎えるようになっています。誰があのような未曾有の大災害を予想したのでしょうか。

そんな中、愛媛県町村会では、原子力発電所の事故により計画的避難区域に指定され、全村避難指示が解除された福島県飯館村の復旧・復興に向けた取り組みを視察させていただきました。

四国地方は、東南海・南海トラフ地震の発生が懸念されています。また、

原子力発電所があるほか、長い瀬戸内海やリアス式の宇和海沿岸があり、今回の震災は他人事ではありません。当日は、丁寧にご案内をいただいた菅野飯館村長さんや職員の皆様から詳しい説明をいただきました。たいへん有益な研修となりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

ガンバレ福島、ガンバレ飯館！

卓上のカレンダーが、あと一枚となりました。なにかと酒席のふえる季節です。「親の小言と冷たい酒は、すぐには効かぬが後で効く」

死んだ父は無口でお酒の好きな人でした。そんな父から、子供のころに小言を言われたこともあり、その時は聞き流すことが多かったように思います。

でも、自身がその年齢となり、今頃になって、その気持ちや心配が分かるような気がしています。いくつになっても親にはかきません。

5年くらい前、事情があつて2週間ほど独身生活を余儀なくされたことがありました。その時に気づいたことは、僕はなんにもできないということ。端的なのは、洗濯機の回し方やゴミの始末などで、さっぱり分からないんです。いやあ悪戦苦闘の毎日で参りました。

「ありがたさが分かったやろ？」とは細君の弁。そんなこと居丈高に言われても、困るよねえ。

平成29年が、もうすぐ終わります。僕は毎年、年賀状にこう書いています。「昔も今もこれからも、周りの人が頼りです」。独りではなにもできません。明年も、よろしくお願ひ申し上げます。

みなさん、どうぞ良いお年を！